



農業知識広場

農へのこだわり

〜知っててよかった〜

土産指導員



今から農薬を使用する機会が増えてきます。散布する時は使用方法を守り、安心・安全な農産物を生産しましょう。

『アザミウマ(スリップス)の生理生態と対策』

生理生態と対策

アザミウマは難防除害虫のひとつで、植物を吸汁することで葉や花びら、果実にかすりが入ったり、果実や新葉の奇形やウイルスの媒介など農作物に広く被害を及ぼします。

今回は大きな被害を及ぼす主な種類について説明します。

主な種類と特徴

● ミナミキイロアザミウマ



体長は雌が1.0〜1.1mm
で雄は一回り小さい。体色は橙黄色で翅をたたくと背中に黒いスジが見えます。

ナス科、ウリ科、キク科と寄主作物は広く、特にナス、ピーマン、キュウリ等の果菜類やホウレンソウ、キクなどで被害が大きく、メロン、キュウリ等にキュウリ黄化えそウイルスを媒介します。

● ミカンキイロアザミウマ



雌が体長1.4〜1.7mm、雄が1.0〜1.2mmで、体色は雌は黄から褐色、雄は明黄色で、ミナミキイロアザミウマよりやや大きめです。

ナス、トマト、ピーマン、キュウリ、イチゴ、ホウレンソウ、キクなど果菜類、葉菜類、花き類、果実類に広く寄生します。

薬剤抵抗性も強く、トマト黄化えそウイルスを媒介することから、施設で栽培する農作物に対しての重要害虫になっています。

● ヒラズハナアザミウマ



体長は雌が1.3〜1.7mm、雄は1.0〜1.2mmで体色は雌が暗褐色、雄は黄色となります。

寄生作物は、ウリ科の他にナス、ピーマン、トマト、イチゴなど広範囲に及びます。

● ネギアザミウマ

成虫は体長1.5mm前後で棒状に細長く、



体色は淡黄色または淡褐色です。

ネギやタマネギの他に、トマトやキャベツ、トルコギキョウ等、広範囲な作物に寄生

し大きな被害を与え、トマト黄化えそウイルスも媒介します。

防除方法

野菜類・花き類・果樹類・雑草等に寄生し被害発生時期は、育苗から収穫までのほぼ全期間におよびます。

アザミウマの防除が難しいのは、ハウスなどで一定の温度があると周年で増殖することからです。また、寄生する植物も多いことから圃場の中ばかりでなく周辺の雑草地帯も生息地であったり、植物の中に産卵し、蛹の時は土中にいるなど、農薬防除の難しい時期があることが挙げられます。

アザミウマを薬剤防除する場合、種類によって使用農薬の効果が異なることから、必ず種類の同定を行い薬剤を選択し

ます。また、同じ薬剤ばかり使用すると薬剤に対する抵抗性がでる可能性があるため、違う系統のローテーションで防除を心がけましょう。

圃場内外の雑草の管理等の耕種的防除やハウスサイドへの防虫ネットの使用、近紫外線カットフィルムの被覆や粘着トラップの設置等による物理的防除を併用的確に防除することが重要です。

種類の同定や薬剤の選択については各地域の、営農指導員または最寄りの営農事務所にご相談ください。

今月の農作業

地域によっては、田植えが始まっていますが、箱処理剤を散布する時は除草剤と間違えないように注意してください。また、田植え前に初期除草剤を使用する場合、散布後4日間は湿水状態を保ち、7日間は「落水」したリ「かけ流し」を行わないようにしましょう。水管理については、田植え直後は深水として低温から稲を守り、田植え10日後くらいから浅水管理を行い水温を上げることに努めましょう。

野菜についても、定植後の気温が低い場合、4月号を参考にトンネルやキャップで保温し寒さ対策をしましょう。